

# 国語科

橋本 正恵

早谷 憲子

谷口 仁

助言者 折川 司（金沢大学）

## 1. Society5.0に向けた教育を進めるに当たって

本年度の研究主題である「Society5.0を主体的に生きるための資質・能力の育成」における国語科の役割を論じるにあたって、STEM教育からSTEAM教育に移行することによって加わった「Arts」について考えていく必要がある。理工系の要素が強かったSTEMでは、「より便利に。より効率的に」といった合理性が求められてきた。新たに加わったArtsは、芸術的な面だけでなく「哲学」や「教養」などさまざまな要素を内包している。そこではSTEMでの効率重視に対して、「なぜそれが必要なのか。大切なのか」といった、技術革新に対する本質を問いかけており、本当の意味での「人間の幸福」とは何かを追求していくことが根底にあると考えられる。優れた技術やアイデアを習得し、利用してだけでなく、それらがなぜ有用であるのかを思考し、選択していく資質がSTEAM教育、ひいてはSociety5.0を主体的に生きる上で重要になってくる。これは、人との関わりの中でさまざまな意見を交流し、思考力や想像力を養う国語科の目標と合致するところであり、新しい社会を牽引する人材を育成するために国語科として果たすべき役割であると考えた。

また、本校では令和元年度まで伝統文化教育の研究に取り組んできた。長い歴史の中で培われてきた日本人の価値観や美意識はSTEMにはなかったものであり、伝統文化教育で行ってきた「言葉」に重点を置いた言語活動はSTEAM教育においても継続・発展できると考える。

以上のことをふまえ、国語科では「さまざまな題材を用いた探究的な言語活動に取り組み、創造的に問題を解決する力を養う」ことを目標とし、取り組んでいくことにした。

## 2. 資質・能力の育成に当たって

### (1) 教科等として育成する資質・能力について

国語科では前述のように、さまざまな意見を交流する学習活動の中で思考力や想像力を養うことを重視していく。また、文部科学省は、Society5.0で共通して求められる力について、「①文章や情報を正確に読み解き対話する力」「②科学的に思考・吟味し活用する力」「③価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究力」の三つを挙げている。①はもとより、STEAM教育におけるArtsの役割として、③の「価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究力」にも注力していきたい。これは、学習活動には高い理解力を示しながらも、問題解決に向ける積極性には乏しい本校生徒の課題に対する手立てとすることもねらいとしている。

以上のことをふまえ、本校が定めるSociety5.0を主体的に生きるための資質・能力の育成に向けて、国語科では、多様な考えにふれ、意見を交わし理解を深めていくという教科の特性を鑑みて、「よりよく生きようとする態度」「多様性の尊重」「対話する力」の育成に重点を置いて、以下のような実践に取り組むこととした。

- ・枕草子（2年）

枕草子の学習を踏まえて、自分流枕草子を書いた。相互評価をすることで、より良い表現に気付くことができ、お互いの感性や表現を認め合うことができた。

- ・俳句の可能性（3年）

俳句の創作・鑑賞においてディベートを取り入れ、互いの作品に対する質疑を通して、自分の考えをより明確に表すことをねらいとした。また、その活動を見越して、よりよい表現を選択している姿が見受けられた。

- ・高瀬舟（3年）

弟を死なせた喜助の行動が罪かどうか、といった物語を読んで感じた疑問を題材に、グループによる意見交換やディベートを行った。答えのないテーマに対して多様な考えに触れ、意見を重ね合うことで、新しい見方に気づいたり、考えを深めたりする姿が見られた。

## （2） 関連・連携を図った教科等について

- ・説明の仕方を工夫しよう（2年）

音楽で学んだ能と歌舞伎について、それぞれの魅力を比較し、それらを整理してわかりやすく伝えることをねらいとする。

- ・魅力的な紙面を作ろう（3年）

音楽で実施する能楽教室での体験について、次年度に体験する後輩に魅力を伝えるための紙面を編集する。学んだことを生かし、工夫して表現することで、経験や情報をわかりやすく発信する能力を育成する。





1年 単元名「校内芸術作品の鑑賞文集をつくろう」

単元計画（4時間扱い）本時は4時間目

次 時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準・手立て（○） 指導上の留意点（・）	他教科等との連携・本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力
1	<p>■鑑賞文の特徴を理解しよう。</p> <p>①絵画・彫刻の解説文を読み、鑑賞の観点や文章の展開などの解説文の特徴を確認する。</p> <p>②学習の見通しをもつ。</p>	<p>○事象や行為、心情を表す語句に着目し、語彙ノートに書き留めている。</p> <p>【知識・理解・技能】</p> <p>・書いた鑑賞文は、「鑑賞文集」として、冊子にし、クラス全員に配付することを伝える。</p>	<p>（音楽：鑑賞） （美術：表現）</p> <p>「自然体験や本物に触れる実体験を通して醸成される感性」</p>
2	<p>■作品を鑑賞しよう。</p> <p>①校内にある4つの作品から、好きなものを選んで鑑賞し、感じたことをメモする。</p> <p>中庭彫刻「潮の華」 柏樹ホール壁画「夢の鏡」 一階壁画「ブラックホール」 一階絵画「初恋（学舎）」</p> <p>②選んだ作品を解説するために必要な事柄を整理し、文章の構成を考える。</p>	<p>○根拠を明確にして、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫している。</p> <p>【書くこと】</p> <p>・作品から感じたことを付箋に画かせ、その内容をもとに全体の文章構成について考えさせる。</p>	<p>（音楽：鑑賞） （美術：表現）</p> <p>「自然体験や本物に触れる実体験を通して醸成される感性」</p>
3	<p>■解説文を書こう。</p> <p>①構想をもとに、鑑賞文の下書きをする。</p> <p>②読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える。</p>	<p>○表記や語句の用法を確かめている。</p> <p>○叙述の仕方を確かめている。</p> <p>【書くこと】</p> <p>・次時の相互評価を見通して、自分の考えが伝わるよう文章を整えるよう伝える。</p>	<p>「デザイン思考」</p>
4 本時	<p>■鑑賞文を参考に、作品を鑑賞しよう。</p> <p>①自分が選んだ作品以外の作品に関する解説文を読みながら、作品を鑑賞する。</p> <p>②鑑賞文のどの部分が、鑑賞の参考になったのかをまとめる。</p> <p>③感じたことを伝えるためには、どのような工夫が大切かについて考える。</p>	<p>○感じたことを伝えるために、必要な内容を考えたり、文章の構成を考えたりしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>・自分が工夫した点、足りなかった点、次に鑑賞文を書く際に取り入れたいことなどについて、振り返りをさせる。</p>	<p>「デザイン思考」</p>

# 実践事例

国語1年

授業者	橋本 正恵	授業日	11月 18日(水)
授業クラス(時限)		関係・連携の考えられる教科等と学習内容	
1年1組~4組(1~4限)		音楽「鑑賞」 美術「表現」	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力 ・「自然体験や本物に触れる実体験を通して醸成される感性」		教科等で身に付けたい資質・能力 ・感じたことを伝えるために、必要な内容を考えたり、文章の構成を考えたりする力。 【関心・意欲・態度】	
実社会とのつながり			
<p>本題材は、「書くこと」の言語活動例アの「事実やそれを基に考えたことを書く活動」から設定した。自分が作品を見て感じたことを伝えるために、必要な事柄を収集・整理し、文章を整える活動である。自分が感じたり、考えたりしたことを、言葉を通じて他者に理解してもらうことは、他社と協働して、よりよい社会をつくりあげるために重要な能力であると考え。</p> <p>本時では、文章の読み手を意識して、目的意識を明確にしたうえで、考えをまとめたり、文章を整えたりすることを通して、ニーズを意識し作品を創り出すという、デザイン思考を育む試みとしたい。</p>			
本時の授業のねらい			
自分の考えを伝えるために、文章の構成や内容の整理など、必要な工夫について考え、自分を吟味し、これまでの学習について振り返る。			
授業の流れ・活動等			時間
1. 本時の学習について、見通しをもつ。			5
2. クラスの解説文集を持ち、校内の作品(4か所)を鑑賞する。 ・時間内に回れる作品を鑑賞する。 ・はじめに作品を鑑賞してから、解説文を読む。 ・どの解説文のどの部分が鑑賞に役立ったのかを考えながら鑑賞する。			35
3. どの解説文のどの部分が、鑑賞の参考になったのかをまとめる。			5
4. 感じたことを伝えるためには、文章にどのような工夫が大切かについて考える。 ・自分が工夫した点 ・足りなかった点 ・次に鑑賞文を書く際に取り入れたいことなどについて、振り返りをする。			5
			
			
			
			

2年 単元名 「推し」の作家ガイドをつくろう

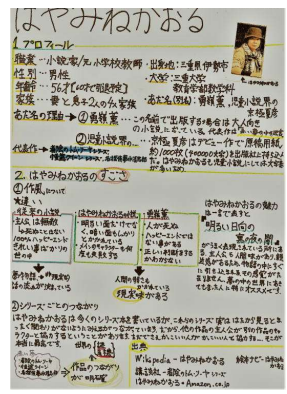
単元計画（6時間扱い）本時は6時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準・手立て（○） 指導上の留意点（・）	他教科等との連携・本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力
1	1	■推しの作家を一人選び、情報を集め、下書きを書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドは掲示し、他クラスや他学年の生徒に読んでもらうことが目的であると伝える。</li> <li>・複数の情報源で調べることや出典をメモすること、情報の正しさを確認することを伝える。</li> <li>・使いたい語句の一覧を配付する。</li> </ul> ○抽象的な概念を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。【知識・理解・技能】	「よりよく生きようとする態度」
	2	①「推し」の作家を一人決める。 ②「推し」の作家ガイドで、作家の情報や「推し」であることを伝えるために必要な内容を挙げ、それらに適した調べ方を考えて、多様な方法で情報を集める。 ③集めた情報を整理し、下書きをする。		
	3	■自分のガイドに足りないものを考える。 ①下書きをグループで確認し合い、必要な情報は何かを話し合う。 ②各班で出てきた意見を発表する。 ③アドバイスを生かして自分の下書きを改善する。		
	4	■改善点を確認し、構成や表現を工夫する。 ・①改善点を確認し、清書をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清書前に前回の授業で各班から出た改善点を確認する。</li> </ul> ○表現の工夫を考えると、作家への思いや作品の魅力等を伝えようとしている。【関心・意欲・態度】	
	5	②表現を工夫する。		
	6	■自分のガイドのよい点や改善点を見いだす。 ①班ごとにそれぞれの作家ガイドを読み、表現の工夫を見つける。 ②班ごとに見つけた表現の工夫を発表する。 ③自分の作家ガイドのよい点や改善点を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作家や作品の魅力や「推し」である思いが伝わる効果的な表現を探すことを確認する。</li> </ul> ○表現の工夫とその効果などについて読み手からの助言などを踏まえ、自分のガイドのよい点や改善点を見いだしている。  【書くこと】	「対話する力」

# 実践事例

国語 2年

授業者	早谷 恵子	授業日	11月2日(月)
授業クラス(時限)		関係・連携の考えられる教科等と学習内容	
2年2組		教科等で身に付けたい資質・能力 ・作者についての事実や事柄, それに対する自分の意見が相手に効果的に伝わるように, 説明や具体例を加えたり, 描写を工夫して書くことができる。【書くこと】	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力 ・作者についての事実や事柄, それに対する自分の意見が相手に効果的に伝わるように, 説明や具体例を加えたり, 描写を工夫して書くことができる。【書くこと】	
・対話する力		教科等で身に付けたい資質・能力 ・作者についての事実や事柄, それに対する自分の意見が相手に効果的に伝わるように, 説明や具体例を加えたり, 描写を工夫して書くことができる。【書くこと】	
<p style="text-align: center;">実社会とのつながり</p> <p>これからの社会を生きていく上で, 他の人の考えに学び, 改善していく力は大切である。自分一人で考え, 独りよがりにならないためにも, 他のものと比較したり, 他の人と対話したりすることで, 自分の考えのよい点や改善点が見いだせると考える。</p> <p>今回, 「推し」の作家ガイドを作成する中で, 根拠を持って自分の考えを伝えることが必要となる。また, 「推し」の作家を中学生に紹介するという目的でガイドを作成するので, 他の人が読み, 理解できることや共感できることが重要である。お互いのガイドを読み合い, 話し合いをすることによって, 自分の文章をよりよいものにするための具体的な手立てに気づいたり, 他の方のよい表現を学んだりすることにつなげたい。</p>			
<p>本時の授業のねらい</p> <p>自分の「推し」の作家ガイドのよい点や改善点を見いだすことができる。</p>			
授業の流れ・活動等			時間
1 前時の学習を振り返り, 本時の学習の目標と流れを確認する。 ・「推し」の作家ガイドに必要な情報や内容を確認する。 ・作家や作品の魅力が伝わる表現や「推し」であることが効果的に伝わる表現を見付けることを確認する。			5
2 班でお互いの作家ガイドを読みながら, 表現の工夫について考える。 ・作家ガイドを改善点を示すように促す。 ・班の中で, よいと思った表現の工夫をまとめるように確認する。			15
3 班ごとに表現の工夫を発表する。 ・よいと感じた表現はワークシートに書かせる。			20
4 自分の作家ガイドのよい点や改善点を考える。 ・改善するところはどこなのかを明らかにすること, 使いたい表現等も併せて書かせる。			5
5 振り返り ・単元の振り返りを振り返りシートにする。			5



3年 単元名「自分たちの考えを伝えるための、特集記事を編集しよう」

単元計画（5時間扱い）本時は4時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準・手立て（○） 指導上の留意点（・）	他教科等との連携・本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力
1	1	<p>■特集記事の内容を選ぼう。</p> <p>①記事にしたい内容を決め、その文章と材料を各自で考える。</p> <p>②グループで案を見比べ、記事で特集する内容を決める。</p>	<p>○自分の思いや考えが効果的に伝わる表現や工夫を考えている。</p> <p>【書くこと】</p> <p>・「誰に対して」「どんな出来事を取り上げ」「どんな考えを伝えたいか」を明確にし、その目的に沿った表現や工夫を考えるよう促す。</p>	「よりよく生きようとする態度」
	2	<p>■編集会議を開き、魅力的な紙面の要素を考えよう。</p>	<p>○伝えたい内容にふさわしい表現・情報を選択している。</p> <p>【書くこと】</p>	
	3	<p>①グループでまとめる内容と担当箇所を決める。</p> <p>②担当箇所について不足している情報を集め、下書きする。</p>	<p>・集めた情報は根拠を確認したり、他の情報と比較したりして、正確かどうかを確かめて整理させる。</p>	
	4	<p>■魅力的な記事になるよう、構成や表現を工夫しながら作品をまとめよう。</p> <p>①紙面構成や表現の工夫を考える。</p> <p>②グループで下書きを読み、助言し合う。</p> <p>③助言をもとに文章・作品を推敲し、清書する。</p>	<p>○助言をもとに、魅力的な記事になるよう工夫し、作品を完成させている。【関心・意欲・態度】</p> <p>・分量や配置など、読み手に伝わる紙面構成を考えさせる。</p> <p>・読者の立場に立って読み合い、互いに評価させる。</p>	「対話する力」
2	5	<p>■特集記事を互いに評価し、伝えるために必要なことを考える。</p> <p>①互いに記事を読み合い、評価する。</p> <p>②単元の振り返りをする。</p>	<p>○記事の構成の工夫とその効果について考え、意見を述べている。</p> <p>【書くこと】</p> <p>・推薦する記事を一つ選び、その理由をこれまでの学習を基に考えさせる。</p> <p>・自分の考えが分かりやすく伝わる文章に必要なことを、交流した記事を根拠にまとめさせる。</p>	「対話する力」
	後日	<p>能楽教室での体験について、単元で学んだことを生かし、魅力を伝えるための記事を編集する。</p>		<p>（音楽：能楽）</p> <p>「自然体験や本物に触れる実体験を通して醸成される感性」</p>

# 実践事例

国語3年

授業者	谷口 仁	授業日	11月 2日(月)
授業クラス(時限)		関係・連携の考えられる教科等と学習内容	
3年 2組(5限)			
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
<ul style="list-style-type: none"> <li>「対話する力」</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>助言をもとに、魅力的な記事になるよう工夫し、作品を完成させている。【関心・意欲・態度】</li> </ul>	
実社会とのつながり			
<p>本題材は、「書くこと」の言語活動例イ「情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く活動」を基に設定した。これからの社会において、目的に合わせて必要な情報を取捨選択し、伝える相手や内容にあわせて表現の仕方を考えることは欠かせない能力である。</p> <p>本時では、読み手の立場になって互いの文章を評価し、わかりやすく書くための具体的な視点を得るとともに、より良い表現を目指す粘り強い取り組み方につなげていきたいと考えた。</p>			
本時の授業のねらい			
魅力的な記事になるよう、表現を工夫しながら作品をまとめることができる。			
授業の流れ・活動等			時間
※これまでの学習の流れ			
グループごとにメディアで取り上げられている事柄について、自分たちの考えを伝えるための記事を作る学習活動。「誰に伝えるか」という目的を設定して編集会議を開き、必要な資料や情報、文章表現について意見を出し合い、書くために必要な素材を前時まで集めて下書きを書いている。			
1 グループで意見を出し合い、魅力的な記事やその表現を考える。【グループ】			5
<ul style="list-style-type: none"> <li>分量や配置を含めた、読み手に伝わる表現について考える。</li> <li>工夫することとそのねらいを具体的に記述する。</li> </ul>			
2 代表生徒数名が発表し、全体で共有する。			3
3 グループで下書きを読み、助言し合う。【グループ】			12
<ul style="list-style-type: none"> <li>読者の立場に立って読み合い、互いに評価する。</li> </ul>			
4 助言をもとに文章・作品を推敲し、清書する。【個人】			25
5 本時の振り返りをする。			5
<ul style="list-style-type: none"> <li>本時で考えたことを整理し、次時の相互評価に繋げる。</li> </ul>			